



野村産業株式会社

<http://www.nomura-sangyo.co.jp/>

高度なホームページ構築でユーザー獲得を目指す

デジタル時代の情報発信ツールとして定着した感のあるホームページ。多くの企業でもプロモーションの一環としてサイトが利用されているが、運営にかかるコストや成果を上げられないなどの理由から、全ての企業が完全に活用しきれていないといえない。ましてや一般ユーザーを顧客対象としない製造業関係ではホームページすらない会社も多い。ここで紹介する野村産業株式会社はシートメタル(精密板金)を得意とする製造メーカーでありながら独自にホームページ制作に取り組み、業界から注目を浴びている。その経緯と目的について、代表取締役社長の野村正徳さんとホームページ制作を担当する企画開発係長の千葉伸さんに伺った。

高度な技術力を持つ精密板金メーカー

板金加工は自動車や屋根はじめ、各種機械のカバーやケース、タンクなど、ありとあらゆる機械製造分野に関わっている技術。最近では製品の多様化や高度化にともない、より精度の高い加工技術であるシートメタル(精密板金)の需要が高まっている。

前沢町に生産工場を置く野村産業株式会社は、ステンレス材のプレス板金と金型製作を得意とする精密板金加工企業。その高い技術力を武器に顧客ニーズに合わせた製品を製造し、数多くの大手メーカーの要求に応えている。

昭和11年、東京で軍需品生産を行う製作所として創業した同社は、戦災により一旦企業活動が途切れたものの、再建後は日本の復興と足並みを揃えるようにして発展してきた。

昭和20年代後半には鉄工業で培った技術をベースに液体複写機・通信機の筐体および部品製造分野に進出し、36年には東京都府中に工場を建設。昭和40年代に入ると高度成長期の追い風を受けて業績はさらに拡大し、それとともなって建設されたのが野村産業株式会社岩手工場である。「新たな人材確保の場を探していた当社を受け入れてくれたのが、ここ前沢町でした」と代表取締役社長の野村正徳さんは経緯を語る。

同社の生産拠点として昭和43年に誕生した岩手工場は、業績の拡大とともに設備の増強が図られてきた。昭和53年には300tプレスやNCベンダー、ワイヤーカット放電加工機などを導入、60年には増改築が行われた。63年には現在地に工場が建設され、板金製品の量産体制を確立。

同時にレーザー加工機も導入し、単品生産の受注体制も強化した。



野村産業(株)のホームページ
<http://www.nomura-sangyo.co.jp/>

平成に入ると、同社の事業はより多角的に拡大していく。大手メーカーとの業務提携や東京都の新規分野進出・特定中小企業認定をきっかけに、環境美化分野や建築機械分野へも参入。また平成13年には東京本社・府中工場、そして岩手工場でも品質マネジメントシステムISO9001を認証取得するなど、企業信頼度の向上にも努めてきた。

そして現在、岩手工場は同社の製造・開発部門の拠点としてはもちろん他社の研修受け入れなど、精密板金業界のモデル工場として東北地域の産業社会の発展にも貢献している。

魅力あるホームページ構築への試行錯誤

パソコンが社会の隅々まで浸透した現代、企業がホームページを持つことは、もはや当然のことになった。



時代のニーズに合わせ、次々に業務革新を展開してきた野村正徳社長。ホームページの設置にも先進の企業風土が反映されているといえるが「基本は仕事の品質。最終的には品質・コスト・納期が重要です」と断言する。技術メーカーとしてのスタンスは崩さずに、新しい取り組みを積極的に支援する経営者である。

とはいえ、開設にはある程度のITの知識が必要であり、運営・管理にもそれなりの時間や人的コストがかかってしまう。一般ユーザーを顧客とするような企業ならまだしも、製造業関係の企業では、まだホームページを活用しきれていないところが多いのが現状だ。

野村産業株式会社でも数年前まではホームページの用途に試行錯誤を繰り返していた。

最初の開設は95年頃、岩手工場での制作だったという。しかし99年と01年の2回に渡り、今度は府中工場でも更新が行われている。その理由を「ホームページの運営システムが確立されていなかったため」と話すのは、岩手工場企画開発係の千葉伸係長。05年7月に全面リニューアルが行われたのは、千葉係長の「岩手工場独自で作ったホームページを会社のものにリンクさせたい」という提案をきっかけに全体を見直す構想に発展したからだ。

「従来の単なる会社案内からネット受注の営業ツールとしてホームページを位置づけたい。府中工場も同様の考えだったんです」。

そう説明する千葉係長は、現在、同社ホームページの制作から管理・運営までを手掛けているが、スタートは「作成ソフトのマニュアルを見ながらの手取り足取り状態で作った」というから驚く。しかし制作にあたっては方向性や構成を考え、タキキ台をもとに本社スタッフと検討を重ねるなど、綿密な下準備を行ってきた。その過程で特に重視したのが他社との差別化。「よそとは違う魅力あるサイト」が構築テーマだったという。

ポイントは大きく分けて3つある。第一は、トップページの企業名の上に「高品質ステンレス加工と金型技術の」というキャッチフレーズを加えたこと。企業概要を簡潔に表現したこの一文は、従来のホームページにはなかった。第二は、トップページにピクスクーナー



電気機器、情報通信機器、事務機器等部品の製作から金型の設計製作など、あらゆる産業分野に野村産業製作の機構部品が使われている。さらに平成6年からは環境対応製品の開発・設計・製作も手掛け、一般ユーザーへの販売もスタートさせた。部品製造メーカーから開発型企業への展開が期待される。



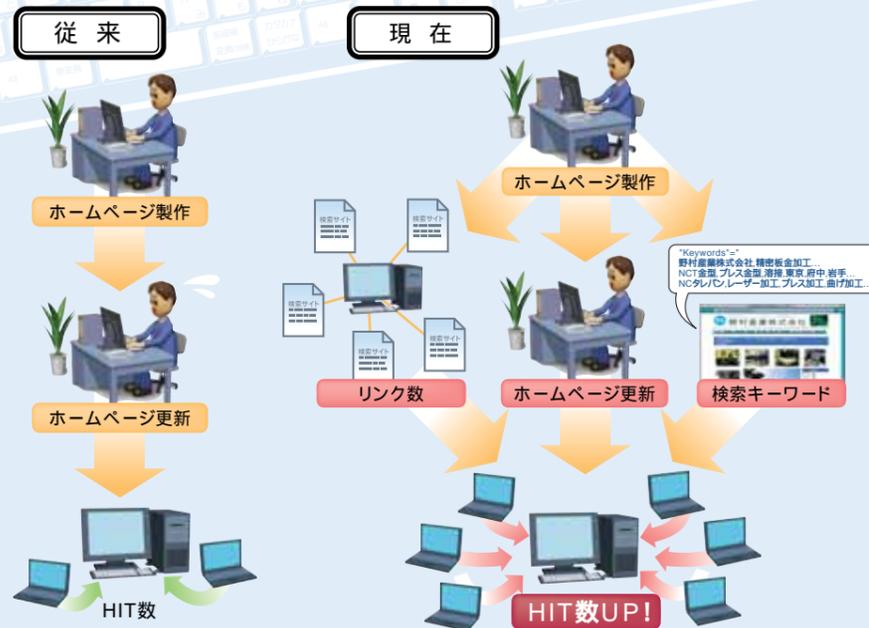
ドイツ製のパンチ・レーザー複合機ははじめ立体形状にも対応可能な3Dバリ取り機(デンマーク製)、デジタルで加工スピードを制御するレーザー加工機など、最新の板金加工機が導入された岩手工場内。マシンングセンターやワイヤーカット放電加工機なども設置されているため、金型などの治工具もすべて自社内でまかなう態勢が整っている。

を設けたこと。「更新されないホームページは見てもらえないから定期更新のシステムは是非作りたい」と千葉係長。月替わりで掲載されるのは企業訪問や新設備の紹介、社内・社外行事の様子など多種多様。写真とともに一文が添えられており、会社の個性がダイレクトに伝わってくるようだ。異色は岩手の自然を紹介するピクスク。さらに「岩手の自然」と題した別コンテンツも用意されている。これは「圧倒的に多い県外ユーザーに見てもらうためのページです」と野村社長は言葉を添える。

第三は、画面をプリントアウトした時にA4サイズに収まるよう設定していること。情報の取り出しやすさを考えたこのアイデアは、ウェブ上ではわからないがかなり有効だ。

見やすさや親しみやすさ、そして使いやすさ。同社のホームページはユーザーサイドに立って構築した、完成度の高い「会社案内」ともいえるだろう。

SEOとは、「検索エンジン最適化(Search Engine Optimization)」と呼ばれ、検索エンジンによる検索結果で、自社Webサイトをできるだけ上位に表示させるために、様々なアプローチでWebサイトを最適化する手法。



SEO対策で、より効果的なサイト運営を

ホームページを開設した後も同社ではたびたびブラッシュアップをかけ、現在のスタイルを確立した。その最大の特徴が、自社内でSEO対策を行ってきたことである。

SEOとは、検索エンジン(GoogleやYahoo!など)においてホームページの内容に関するキーワードやキーワードで検索をかけた際、自社のウェブサイトが上位に表示されるようにホームページを改善することで「検索エンジン最適化」と呼ばれている。インターネットユーザーの大多数が検索エンジン経由でサイトを訪問する現在、ウェブ上で販促活動を行う企業にとってSEO対策はより高度な戦略と位置づけられるもの。そのポイントは「各ページのタイトルとキーワードの一致」「ホームページの定期更新」「リンク数の多さ」の3点と千葉係長は話す。

では、同社のSEO対策の内容を紹介していこう。

「各ページのタイトルとキーワードの一致」対策としては、まずフレーム機能をなくしたことがあげられる。これによりロボット検索がフレームにブロックされテキストまでたどり着けないという問題はクリアさ

れた。また7月からはどんなキーワードやフレーズが検索対象になっているかをGoogleの検索順位を参考に記録し、その変動を管理している。

「ホームページの定期更新」は前述の通り、月に1回トピックスを更新する方法である。

そして3点目の「リンク数の多さ」。この対策では、無料の検索エンジンを自分で探し手入力で登録するという方法がとられた。しかもその登録数は約100サイト。「業者に依頼をすれば『リンク20万サイト』も可能になるのですが、できることから自分で行う方がいいと思ったからです」と千葉係長はこぼれがに話す。

これら取り組みを踏まえ、同社では最近、受注支援サービスを行う専門業者へ申し込みも行ったという。そのサービスの中にはSEO対策も含まれていたため、「検索に関する詳細なデータも取り出せるようになった」と千葉係長。自社で培ったSEO対策のノウハウをベースにプロのサポートを受け、より効果的なサイト運営を行う体制が同社では出来つつある。

サイト構築のノウハウを活かした社内ネットワーク

7月にスタートした同社のホームペー



自社ホームページ作成を一手に引受ける千葉係長。毎月のトピックス更新のため、業務の合間を見ながらデジタルカメラ片手に社内取材して回っている。「ホームページはやってみなければわからない部分も多い。私たちの会社もやっとスタートラインに立ったところ。走りながら考えている状況です」。そんな千葉係長のもうひとつの顔が見られるコンテンツ「岩手の自然」は、釣りや岩手の自然などが美しい写真で紹介されており、ファンも多い。

ジでのプロモーション。その活動は、早くも一定の効果を上げている。

サイトを介した新規引き合い件数は、開設時の7月から今月まで毎月1件とコンスタントに発生しており、しかも現在はすべてが見積もり段階に。この中には千葉係長が100件近く自力登録したサーチエンジンからの来訪者も含まれていたそうだ。

こんな例もある。同社では岩手工場に設置された最新の板金機器を利用した業界交流会「東北シートメタルプライベートショー」を11月初旬に開催したが、その参加企業の中にはホームページを閲覧し、遠く関西圏から問い合わせをしてきたところがあったそうで「この業界では非常に珍しいこと」と野村社長も驚いている。

しかし同社にとってのサイト運営は、あくまでもプロモーションのいち手段。作成を手掛ける千葉係長も「メーカー側にとってネット検索のメリットは見積もりの取りやすさであり、当然各社に対して行っているはず。たとえ新規の引き合いがあったとしても見積もりが通らないと顧客獲得には結びつかない。厳しい競争があるのは通常のセールスと変わらない」と話している。

多様化するオーダーに応えるためには、常に最新の技術や設備を取り入れてい



く必要がある。また量産品生産が海外にシフトしている現在、国内メーカーが優位性を保つためには超短納期にも応えられる体制づくりなど、技術力や生産力の改善にいつその力を注いでいかなければならない。

同社ではホームページ開設を通して蓄積してきたIT技術のノウハウを応用し、生産力向上につなげている。

まずは工場内に導入されたLANネットワーク。顧客からのCADデータは専用アドレスで受信し、オペレーション室でプログラミングを行ったのち加工機へ。プランク検査もLAN接続された最新のレーザーQC測定器で元データと照合する。このシステムにより納期のスピードアップはもちろん製品の精度も飛躍的に向上。今後は生産管理システムも強化していく予定という。また平成16年には岩手工場にネットワークカメラを導入。インターネット経由で府中工場からでも遠隔操作でモニタリングできるようにし、進捗状況を見ながらの打ち合わせが可能になった。それと同時にIP電話も導入し、岩手・東京間のコミュニケーションコストの削減も実現している(岩手工場は07年に社内の全電話を切り替え予定)。

プロモーションツールとしてのホームページと社内体制強化のためのネットワーク



構築。ITを使いこなすことこそが、野村産業株式会社との「差別化戦略」の方法のひとつであった。

業務品質があってこそホームページは生きる

新聞や雑誌等と違い、ホームページを訪れるユーザーは商品やサービスに関する情報を能動的に探しており、非常に質の高い見込み顧客であるといえる。しかし膨大な数の企業ホームページが存在する現在、ウェブ上でのユーザー獲得合戦は熾烈を極める一方である。

野村産業では昨年から今年にかけて岩手工場へ次々と最新の板金機器を導入、東北でも屈指の設備を誇る生産体制を整えた。それと同時に進行で社内体制の強化にも取り組んでいる。

「我々製造業の基本は、お客さまに喜んでもらえるような『モノ』を作ること。そのためには品質・コスト・納期といった業務の基本品質で優位性を保てていなくてはなりません。それができなければホームページを使って情報を発信するなどということはしない方がいい」。

モノづくりへかける情熱とプライドが、野村社長の言葉からは感じられる。

本当の「差別化」とは高い技術力と



今年の1月に導入されたレーザーQC測定器はLAN接続によりプログラム作成されたデータと完成品の適合性を正確にチェックするもの。これら最新機器は、板金機器メーカー主催のプライベートショーなどにも利用されるほどに充実している。県内外の企業視察や研修の受け入れもしている。

生産力を保持すること。その基礎があって初めてホームページは効果的な営業ツールとなることが、野村産業の取り組みから見えてくる。



前沢町の田園地帯にある岩手工場は野村産業株式会社の生産拠点。事業展開に合わせてNC化やデジタル化、プレス化を進め、量産品のオーダーにも素早く対応できる体制を整えている一方、熟練の技を有する従業員による少量品の生産にも対応。その取引先は精密機械メーカーから電気、デジタル関係まで多岐にわたる。

野村産業株式会社

企業概要
 創 業：昭和11年3月
 代 表 者：野村正徳
 本 社：工場 東京都府中市西原町1-13-3
 岩手工場：胆沢郡前沢町本杉128
 電話番号：042-576-6131(東京)
 0197-56-3107(岩手)
 資 本 金：2,000万円
 (平成17年7月現在)
 従業員数：60人(岩手工場)
 事業内容：高品質ステンレス加工と精密金型技術